

卓越した松

日本では松の木が長寿のシンボルであるため、400年の歴史を持つ栗林公園には1,400本近くの松が生い茂っています。専門の庭師が定期的に手入れをしている約1,000本の樹木には、皇室の成員によって植樹されたものや、皇太子として庭園を訪れた元英国君主エドワード8世（1894年～1972年）が1922年に植樹した1本も含まれます。しかし、もっと有名なのは栗林公園の「三大松」であり、鶴亀松、箱松、根上り五葉松を指します。鶴亀松は、その形状にちなんで名付けられたクロマツで、100個以上の石でできた塚である亀の背中に立っている鶴に似ていると考えられています。庭園の中央部にある商工奨励館の近くにあります。鶴亀松の南には箱松が並んでおり、遠くから見ると細長い箱の形をしているように見えます。掬月亭茶室の隣にあるのは根上り五葉松です。高さ約8メートルの木はもともと、1867年まで日本を統治した幕府の将軍・徳川家斉（1773年～1841年）から高松藩の大名が1833年に賜った盆栽でした。大名は松を鉢から取り出して庭に植え、印象的な大きさになりました。栗林公園で唯一の五葉松です。